岐阜大学イノベーション創出若手人材養成プログラム

NEWS LETTER

No.6
2021.2
最終号

■イノベ・プログラムの終了■

「地域の新産業の牽引に必要なマネジメント力，コミュニケーション力，協調性とともに，創造性に富み，国際的な広い視野と実社会のニーズを踏まえた発想力を身につけた人材の養成」を目的として，平成22年４月にイノベーション創出若手人材養成センターが開設され，以来イノベ・プログラム（イノベーションスキルプログラムと産学連携教育プログラム）が10年以上にわたって実施されてきました。

このイノベ・プログラムは、令和３年３月31日をもって終了いたします。

巻 頭 言

教育推進・学生支援機構　機構長　**福井 博一**

博士後期課程（DC）の大学院生は，ややもすると研究室での研究生活に没頭し，社会人としての資質向上に関わるトレーニングが疎かになりがちでしたが，本イノベ・プログラムの実施によって社会で活躍できる有為な研究人材を輩出できたことは大きな成果であったと思います。また，これまでの11年間のイノベ・プログラムの実施を契機として，各研究科でも独自に社会人研究者としての資質向上プログラムが立ち上がり始めており，それ以前の研究室での指導教員に委ねられてきた博士後期課程学生に対する人材養成を，研究科として責任を持って行うという考え方が浸透してきました。

このように，岐阜大学として博士後期課程（DC）大学院生に対する社会人研究者としての資質向上教育が整い始めてきたこともあり，本事業の採択期限に伴ってイノベ・プログラムを終了することといたしました。11年間の本事業に関わっていただいた教職員の皆様に深く感謝致すと共に，本事業の教育精神が本学において大きく発展していくことを願っています。

令和２年度活動報告

教育推進・学生支援機構 特任教授　**吉田　敏**

はじめに

「イノベーション創出若手人材養成プログラム」（略してイノベ・プログラム）は、開講してから今年度で11年目になり（本年度11期生）、これまでに受講したのは博士後期課程（DC）の院生174名、ポストドクター（PD）14名になります（11期の「聴講生」はDC（DC1～2）18名；但し、長期インターンシップ実施を希望する「研修生」は０名）。このイノベ・プログラムは、文字通りイノベーション（新技術・新製品・新価値）を創出できる若手研究人材を養成するためのプログラムであり、今後イノベーションを担う企業や公的機関、アカデミアや起業家等を目指す大学院生（ほぼ半分は留学生です）が、交流し切磋琢磨する場であり研究科横断的なネットワークでもありました。

2020年度は、19年度までとはプログラムの内容が大きく様変わりしました。もちろん、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）のパンデミックのせいですが、対面活動は大きく制限され、リモートによるセミナー等が主体になったこと、履修登録した学生でも学内に来れない場合が多くあったこと、スケジュールが大幅に変更になったこと、などによります。そのような中でも、今回このプログラムはどのように実施されたのか、以下に詳細にご報告し困難な中でも如何に乗り越えようとしたか、この最終号に記録して留めたいと思います。

アイディアトレーニングキャンプ（ITC）について

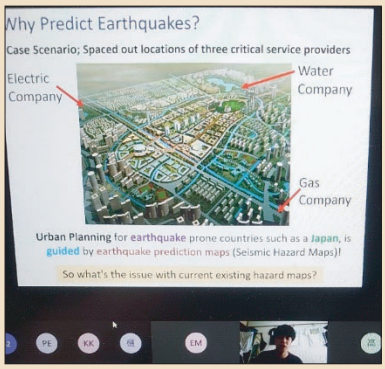
イノベのスキル・プログラムの中でも一番人気のあったアイディア・トレーニング・キャンプ（ITC）は、コロナ禍により５月開催ができなくなり、８月に延期された。年度開始の時期に感染症が広がり大学が全館閉鎖にもなり、大学に出て来れない留学生や、連絡が取りにくくなった学生もいたので、５月中旬の予定から８月中旬に延期した。そのガイダンスとして５月13日午前11時からオンラインで（Microsoft TEAMSテレビ会議システム利用；半分程度の参加）行った。

８月５日、第１日目は、午後１時から柳戸会館１階会議室において対面で開始したが、予定していた１名の留学生が出て来れず、別の予定されていない留学生が現れて参加することになった。また、別の１名の留学生は日本に来られなかったのでケニヤからのリモート参加になった。結局、８名の対面参加と１名のリモート参加のもと、対面とTEAMS利用のハイブリッドで会議が始まった。最初に予定していた全体討論に代わり、英語による個別の研究発表（各５分間）から開始した。発表者は事前に配布したフェイスシールドを付けて約５分間の研究概要発表を行い、その他の参加者は３つのグループに分かれてマスク着用しながら参加 ☞

☞ し、発表を聞いた後質疑応答も行った。各グループにはアクリル板を各１枚置いてマスク着用のもとで議論してもらった。８名発表が終了した後、リモートでケニヤから参加している留学生もTEAMSを使って画面共有によりPPT発表をプロジェクターで映し出して行うことができた。

全員の発表を聞いた後は、３つのグループ（A, B, C）に分かれて、各グループでどのテーマについてリファイン作業を行うかについて議論を続けた。ほぼ各テーマが決定されて散会となり、続きの議論はオンライン（TEAMS上で）のグループワークで行うことになった。

２日目は、グループごとのリファイン作業のグループワークを行うことになっていたが、翌日の６日から18日までグループごとのオンライン（TEAMSチャット）会議によっておこなった。お盆休みを挟んで２週間ほどこのリファイン作業を続けてやってもらって、最終案（12分発表用と３分発表用の２種類）のPPTファイルを発表日（19日）までにアップロードしてもらった。



元のプログラムの３日目にあたる最終発表日は、８月19日（水）になったが、オンラインでTEAMSでの発表とした。発表終了後、ベストリファイン賞を選ぶための投票を行った結果、Bグループ（担当：高橋）が選ばれた。これで一応ITC2020は、終了となった。例年の集合写真は撮れなかったが、上にオンライン発表の様子をパソコン画面に出したので雰囲気は分かると思われる。

ビジネス英語について

当初４月から開始予定のビジネス英語の授業は、９月からに延期になり、途中５月12日にWebによるガイダンス兼顔見せをZOOMで行った。この授業は特に対面での双方向の授業が重要であり、感染拡大が一定抑えられていた９月から予定通り開始することが可能になった。実際の授業は、変更したシラバスの通知後、９月16日から対面でいつもの部屋（連農棟２階）で11名の参加者（内10名が留学生）で開始することができた。それまで中々連絡が取れなかった留学生１名も参加できるようになっていた。講師のマリオ先生も受講者も、最初に配布したフェイスシールドと各自のマスク着用のもとで授業に参加した。COVID-19感染防止のためアルコールによる手指消毒、体温測定、換気のためのドアと窓の開け閉め、体調が悪いと感じた場合の不参加、等も意識的に行われた。この授業は一日１回の授業だけでは日程的に厳しかったので、途中一日２回の授業も取り入れながら行い、最終的に12月23日で全15回の授業が終了した（12月は感染拡大により16日と23日の分はオンライン（ZOOM）授業となった）。11名全員２単位修得できた。

高度人材育成セミナーについて

昨年度まで行われてきた「エンライトメントレクチャー」は、受講対象を博士課程だけでなく修士課程まで広げたセミナーとして今年度から「高度人材育成セミナー」に代わり、通年で行われることになった。今年度のセミナーのリストは、以下のとおりである。これらは全てZOOMによるハイブリッド型リモートセミナーとして行われた。（順番．講師名（企業名）、題名、

開催日、）１．リ・ネイ（TDSE；連農修了生）、異分野に進むこと、6/17、２．花植（IES）、今後の情報系業界に必要な高度人材とは、6/24、３．伊吹（不二製油）、今後の食品業界で研究を生かすには、7/15、４．太田（太田油脂）、食品業界に必要な高度人材、7/22、５．木幡（TDSE）、データサイエンティストへの招待、7/29、６．丹野（キュービクス）、医療・製薬業界での起業、10/23、７．丹羽（鍋屋バイテック）、ものづくり業界に必要な人材、10/28、８．森（元NHKアナ）、自分を売り込むプレゼンのやり方、11/13、９．小池（花王）、化学業界に必要な高度研究人材、11/20、10．廣瀬（エンザイムテクノ）、製薬業界に必要な高度人材、12/11．これらの10コマのセミナーのうち、8コマ履修すれば1単位認定される（但しレポートの提出が必要）。

今回のセミナーは、対象を修士課程にも広げたが、実際聴講した学生は各回１名～６名程度で昨年度と比べあまり増えなかったが、最初の方にやったデータサイエンス関係の聴講者は修士課程の学生の参加もあり比較的多かった。特に１回目講師のリ・ネイ氏は連合農学研究科の修了生で異分野のデータサイエンスの先進企業TDSE社にイノベの長期インターンシップを経て就職した若手研究者であり、学生からの関心も高かった。一方、連農の社会人博士課程の院生１名は熱心に８コマ聴講してくれて（１単位修得）、セミナーの中でも活発に質疑応答がなされ濃密な時間となることも多かった。これらのセミナーの多くは、講師からの許可を得たものは学内の動画共有サイト（学内のオフィス365サイトのStream）に保存しているので、就活しながらでも視聴し直して頂きたい。

他大学との連携（企業との交流会、３MTコンペ、長期インターンシップ等）について

ITC等イノベ・プログラムの応用的イベントとして、名古屋大学主催の「企業と博士人材の交流会」のWeb交流会、さらに広島大学主催の３MTコンペ（３分間研究発表コンペティション）に参加するように学生に勧めた。昨年度は、岐阜大学内で「未来博士と企業との交流会」を実施したが今年は名古屋大学のイベントに合流することにした。また３MTコンペに参加する場合、必要になる３分間程度の発表用PPTファイル作りのオンラインガイダンスをTEAMS上で行い、名大のイベントにも広大のコンペにも役立つような指導を行った。その結果、名古屋大学のWeb交流会に岐阜大学から２名が参加できた。広島大学３MTコンペにも岐阜大学から２名が英語部門に参加し、両名ともファイナリスト10名の中に選ばれ１名がスポンサー賞を受賞した。長期インターンシップ（１～３ヵ月）に関しては、昨年度までは毎年１～２名のD１～D２の学生が参加していたが、今年度はその希望者が出てきておらず、通常は広島大学HIRAKUプロジェクトのHPに情報が載ることが多い企業等のジョブ型長期インターンシップの募集もほとんど出ていなかった。

2020年度高度人材育成セミナーに参加して

連合農学研究科　D1
米津 洋一郎

私は会社を経営しながら博士課程に籍を置くというチャンスに恵まれた40代の社会人学生である。「イノベーション創出若手人材養成プログラム」は文字通り若い年代の研究者にイノベーションを起こす契機を提供する意図で設けられたプログラムである。そのプログラムの一つである「高度人材育成セミナー」を受講したのは、講師陣に何やら癖のありそうな会社名と経営者が名を連ねていて興味をそそられたからであった。今年度、多くの大学の講義が新型コロナウィルスの感染防止のためリモートになっているが、このセミナーも例にもれず全ての回がオンライン講義で進められることとなった。

セミナーの内容は、各界で活躍している講師陣が考える業界において求められる「仕事ができるヒト（高度人材）」とはというテーマでおおよそ展開された。私自身社会に出て20年以上になるため、仕事を通してそれなりに様々なヒトを見てきた。ゆえに、本セミナーを受講して強く感じたのは、偉そうに言わせてもらえば、スピーカーつまり講師の先生方が「仕事ができるヒト」たちであるということであった。30代から60代で構成された講師陣が話す内容は最新鋭の技術を生かしたビジネスモデルのことであったり、自身の経験から生み出された視点の転換や発想方法など、紹介される内容はまさに「仕事ができるヒト」のエッセンスが随所に散りばめられた内容で、どこかで借りてきたような安っぽいマニュアル論ではなく大変面白かった。講師陣の今現在の会社におけるポジション別の取り組み事例や考え方または哲学は、まさに私の感じていたビジネスにおける暗黙知を言語化（形式知）してくれたものであり、経営者の私にとっても気づきや学びの多いセミナーであった。

昨今、イノベーションという言葉は様々な媒体を通して目にしないことがないくらい多用されている。それはWith コロナの時代にある私たちの宿命なのかもしれない。常識が非常識に容易に転換し、世界中の人々が何かしらの制限を受けながら生きることを余儀なくされた情勢だからこそのイノベーションが、今まさに起きようとしているし、その空気感が世に満ちている。そのような時代に挑んでいる各界の挑戦者たちである講師陣の、熱のこもった話を聞くことができるこの「高度人材育成セミナー」は、大変お得なセミナーである。若い学生の皆さんには、是非ともお勧めしたい。そうすれば、机上にはない実学だからこそ生まれた言葉たちに、会えるに違いないのだから。

広島大学 3 分間コンペティション（英語部門）2020（Web開催）に参加した感想

工学研究科 D 3
Go Sian Huai

Hello everyone! I have been studying in Gifu University since 2015. In this News Letter, I would like to share my experiences that I got from HIRAKU 3MT 2020 that is hosted byGlobal Carrier Design Center, Hiroshima University.

Three-Minute Thesis (3MT) is exciting opportunity for doctorate students to explain their researches and future visions in limited three minutes in a language appropriate to a non-specialist audience. It must be a big challengeto effectively explain my research with a single static slide ina language appropriate to non-specialist audience. I decided toapply the HIRAKU 3MT 2020 to challenge a new presentation style I had never tried in the past.

I prepared a lot and put a lot of efforts for this competition. As I came from South-east Asian country, English is not my mother language. Therefore, I asked other English native speaker friends to revise my speech. Finally, I won the MICRON award from MICRON MEMORY JAPAN, CO.,Ltd during the competition. This prize was everything to me and I felt that I could create the new chapter of my life. One thing I learned from this competition is that we can create our own happiness in our own ways even in the very tough situation.

I believe the research I shared can contribute to the society, provide not only additional knowledge for the audience but also an inspiration for other doctoral students to overcome all the challenges that we are facing during Ph.D journey. As a last word, I highly recommend doctoral students to join the HIRAKU 3MT competition, and there will be a lot of valuable experience we can get. By participating in this event, we can develop our presentation and research communication skills, gain valuable knowledge from other universities doctoral students in Japan in various fields and expertises.

Albert Einstein said that “If you can't explain it to a six-year-old, you don't understand it yourself.” Through HIRAKU 3MT, we can! Can't we?

イノベ・プログラム（平成30年度～令和 2 年度）の様々なイベントに参加して

連合農学研究科　D 3
浅野 早知

このニュースレターを読んでいる皆さんは、博士課程に進学するか迷っている、もしくは博士課程に進学したばかりの学生さんでしょうか？目的はそれぞれかと思いますが、多くの方は、研究が好きで続けたい、成果を出すまで頑張りたいと考えておられると思います。勿論、その気持ちは大切にして頂きたいですが、それだけの理由で進学を決めることや、それだけしか行わない博士課程生活を送ることは、あくまで主観ですが、お勧めしません。

博士号は免許と同じで、取得した後、将来どのような環境に行っても出来る人間として扱われると言われるように、社会的な責務を必然的に負っていかなければなりません。だからこそ、博士課程に進学する（した）ならば、博士課程でしか出来ない色々 ☞

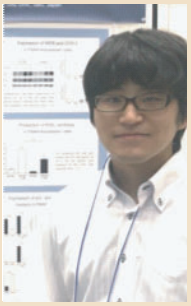
☞ な経験をし、多くの方々との「繋がり」を大切にするべきだと思います。何をするかは人それぞれですが、長期留学をする人、会社を立ち上げる人など、私の知っている中でも沢山います。とはいえ、私も博士課程進学当時は何をして良いかわからなかったので、本プログラムを利用しました。

具体的に行なったことについては、ホームページ(https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/innovation/program.html）上にある昨年度・一昨年度のニュースレターをご参照頂ければと思いますが、結果としては、当初想定していた以上に充実した内容となりました。本プログラムで学んだことが自身の研究に直接生かされたことは勿論、本プログラムを通して国内外、異分野の研究者や学生との繋がりが増えたり、繋がりからまた別の繋がりが増えることもありました。様々なバックグラウンドを持つ方々の交流が増えたことで、物事に対する考え方もなんとなく変わったようにも感じました。しかし2020年度は、新型コロナウイルスの蔓延により、多くの制約を受けてしまいましたし、多くの学生さんも様々な機会が失われ、目標を見失ってしまい辛い経験をされたかと思います。裏を返せば、このような状況下だからこそ出来たこともあり、オンラインだからこそ繋がることのできた経験もありました。

博士号の取得を目指す皆さんは、今後、このような社会や環境の変化にも打ち勝っていかなければならない立場です。是非、学生のうちにしか出来ない経験をして沢山のことを学んだり沢山の繋がりを作ったりして、充実した博士課程生活を送り、大きく自身を成長させていって頂きたいと思います。

名古屋大学の第10回「企業と博士人材の交流会」に参加して

連合創薬医療情報研究科創薬科学専攻 D２
柳生 和耶



私は企業への就活を志望しており、さまざまな業種の企業の業務内容や研究内容、企業が博士人材にどのようなことを求めているかなどを知りたいと思い、名古屋大学が主催する第10回「企業と博士人材の交流会」に参加しました。昨年度は各ブースで企業の説明を聞きその後質問を交えていましたが、今年度はコロナ禍の影響でWeb開催となり、私の研究内容や自分自身をアピールするPR動画を作成したり、多くの企業担当者と直接Web上で話す機会を頂きました。

普段学会発表などの場で、同分野の研究者に対して研究成果を説明することはありましたが、同分野・異分野を取り混ぜた企業担当者に対して、分かりやすく研究成果を説明することは良い経験になりました。特に私が発表した場では、参加していただいた企業の数が多く、就活の良い練習になったと思います。また、PR終了後に企業の方からアドバイスを頂き、就活に向けて自分自身を見直す良い機会となりました。企業のアピールセッションでは、多種多様な企業から話を聞くことができました。

参加して一番良かったと思うことは、直接説明を聞くことで現場の声や雰囲気がよく伝わってきたことです。正直に言うと、私は当初同分野の業種にしか興味はありませんでしたが、異分野の業種でも博士課程を通して得られた能力を存分に発揮できるということが分かり、自分のキャリアパスに対する視野が広がった気がします。

また、交流会終了後に特に気になった企業と連絡を取り、会社説明会にも参加させていただきました。説明会では、交流会より深い内容の話を聞くことができ、また社内見学を行い、オフィスの様子や現場の声を聞くことができ、社員の方がやりがいを感じながら仕事をしていることが伝わってきました。

交流会に参加しなければこのような体験はできなかったと思うので、このような企業との交流会に参加して良かったと思います。

今後の大学院キャリア教育支援

吉田　敏

これまで11年間行われてきた博士後期課程を対象とした「イノベーション創出若手人材育成プログラム」（イノベ・プログラム）は、令和２年度をもって終了し役割を終えます。イノベのスキル・プログラム（ビジネス英語やアイディアトレーニングキャンプ等）は各研究科（工学研究科、連合農学研究科、等）で数年前から開始されていた独自のカリキュラムにバトンタッチされ、一部は名古屋大学主催のプログラム（B人セミナー、企業と博士人材の交流会、等）に合流していく予定です。長期インターンシップ（１～３ヵ月以上）の支援に関しては、広島大学などの連携機関・組織と協力しながら学生支援の一環としてこれからも研究科横断的に進められていく予定です。

イノベ・プログラムが目指した若手人材育成の一環としての博士人材育成支援＝キャリア教育の活動自体は何らかの形で継続されていきます。全国的に見ても、ポスドク問題も若手研究者をめぐる様々な課題もまだ解決されずに残り続けていますし、文科省など国も若手研究人材育成に一層力を入れてきています。

育成会（イノベーション創出若手人材連携育成会）に参加されている企業との繋がりも、今後も維持されていく予定で、交流会やインターンシップ等、若手人材育成に力をお借りすることになります。

今後、岐阜大学においても新しい体制の下（キャリア・就職支援センター）で、名古屋大学等と協議・協力しながら、大学院生のキャリア教育支援に取り組んでいくことになります。

イノベの過去の活動は、ニュースレターにまとめられており、以下のURLからご参照いただけます。

https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/innovation/https:/www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/innovation/program.html

岐阜大学 教育推進・学生支援機構　基盤教育センター・キャリア教育部会　特任教授　吉田　敏
〒501-1193　岐阜市柳戸１番１（大学会館１階キャリアセンター）TEL：058-293-3393　FAX：058-293-3381
Email:career@gifu-u.ac.jp, HP: https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/